

Catch up 滋賀医大 : 滋賀医大ニュースレター
第21号

著者	滋賀医科大学
発行年	2013-01-09
URL	http://hdl.handle.net/10422/9113

滋賀医大ニュースレター

Catch Up 滋賀医大

2013.01.09 第21号



生化学・分子生物学講座 扇田教授が日本医師会研究奨励賞を受賞

H24.11.01



表彰状を手にする扇田教授

生化学・分子生物学講座(分子病態生化学部門)扇田久和教授が、「新規細胞接着分子システムが動脈硬化を制御する分子機構」の研究成果により、平成24年度日本医師会研究奨励賞を受賞しました。

日本医師会研究奨励賞は、日本医師会会員(16万5千人)を対象に、毎

年1回、医学上将来性に富む研究を行っている15名に授与される賞です。

11月1日(木)、日本医師会館で行われた授賞式において表彰されました。

ナイロビ大学及びケニア中央医学研究所と学術交流協約を締結

H24.11.07

平成24年11月7日(水)、本学にナイロビ大学からマゴハ副総長とオムワンド医学部長、ケニア中央医学研究所からポケ所長を迎え、本学とナイロビ大学、本学とケニア中央医学研究所との学術交流のための協約書調印式を執り行いました。

調印式後は、オムワンド医学部長及びポケ所長から、大学や研究所の紹介を兼ねたプレゼンテーションを行っていただきました。

午後は、附属病院の検査部、ICU、光学医療診療部、腫瘍センター(化学療法室)、スキルズラボ、5A病棟・NICU、放射線部を見学いただき、友好を深めることができました。

予てよりケニアとは、本学の藤山教授や医学科の自主研修での交流が行われており、今後、この交流協約のもと、ますます活発な交流が行われ、教育、研究、診療が発展することが期待されます。



集合写真

遠山育夫教授(分子神経科学研究センター)が(独)日本学術振興会から平成24年度科研費審査委員表彰を受けました

H24.11.21



馬場学長から表彰状の贈呈

本学分子神経科学研究センター 遠山育夫教授が、独立行政法人日本学術振興会から、平成24年度科学研究費補助金の審査において模範となる審査意見を付した審査委員として表彰されました。

日本学術振興会では、科学研究費助成事業の審査の質を高めるため、審査終了後、審査結果の検証を行い、その結果を翌年度の審査委員の選考に反映しています。

平成20年度からは、その検証結果に基づき模範となる審査意見を付した審査委員の表彰が行われており、

平成24年度は約5,000名の第1段審査(書面審査)委員の中から115名が選考され、本学からは初めて遠山育夫教授が表彰されました。

表彰状の贈呈式は平成24年11月21日(水)に役員懇談会終了後に行われ、役員全員立会いの下、馬場学長から表彰状と記念の盾が手渡されました。

なお、今回の受賞及び研究者として競争的資金の審査に関わり科研費全体の質の向上に寄与したことから、インセンティブとして学長裁量経費から研究費の助成が行われました。

浜松医科大学と包括協定を締結

H24.11.21

平成24年11月21日(水)、浜松医科大学において、本学と浜松医科大学との教育研究等の連携・協力に関する包括協定を締結しました。

昨今、国立大学の機能強化が強く求められているところであり、このような状況を踏まえ、両大学の教育・研究等の機能強化及び事業の発展を目指し、連携・協力するものです。

本学にとっては、初の国立大学との協定であり、かつ、同じ医科系であることから、今後の教育研究等の発展に大きく寄与するものと期待されます。



馬場学長と中村浜松医科大学学長



記念写真

平成24年度滋賀医科大学医学部医学科第2年次後期学士編入学並びに平成24年度秋季大学院医学系研究科博士課程・修士課程入学宣誓式

H24.10.01

平成24年度滋賀医科大学医学部医学科第2年次後期学士編入学並びに秋季大学院医学系研究科博士課程・修士課程入学宣誓式が10月1日(月)に本学管理棟大会議室で挙行され、医学科学生17名、大学院生(博士課程)8名、大学院生(修士課程)6名が入学しました。

馬場学長は、医学科入学生に対しては「病に悩む人に対して少しでも手をさしのべ、役に立ちたいという「高い

志」を持ち続け、初心を忘れることなく、信頼される医療人として成長され、地域にあるいは世界にその成果を還元してくれることを祈念しています。」と、大学院入学生に対しては「温故知新」を忘れずに、自分の研究分野の文献を詳しく調べ、得られた実験データについて、指導者や同僚との議論を得て、さらに自分の工夫を加え、新しい知見をつけ加え、少しでも医療の道に生かせる努力をして下さい。」とそれぞれ激励しました。



入学生宣誓の様子

平成24年度第1回滋賀医科大学学位授与式を挙行

H24.10.01



学位授与式の様子

平成24年度第1回滋賀医科大学学位授与式が10月1日(月)に本学管理棟大会議室で挙行され、課程博士5名、論文博士3名、修士1名にそれぞれ学位記が授与されました。

馬場学長は、「医学・看護学研究に関する科学は、人をどうみるのか、あ

るいは人間の内的、身体的なものをどう洞察するかにつながるものであり、引き続き研究を深化させ、これまで身につけた思考法や専門的知識、それに技術を十分活用してご活躍され、社会の医療と福祉の発展に貢献されますことを期待します」と告辞を述べました。

平成24年度業務改善等発表会を実施

H24.10.01



発表者による説明



会場の様子

学内各部署の相互理解と更なる業務の改善と効率化を図ることを目的に、9月21日(金)から10月1日(月)までの期間、各職場における業務改善の取組や提案について発表する「業務改善等発表会」を開催しました。

本年度も、学内向け専用Webページ「業務改善等発表会Webサイト」を開設し、これに掲載された計15点の出展を多くの教職員に閲覧していただきました。

10月1日(月)午後1時から、出展担当者によるプレゼンテーションを実施し、スクリーンに図・写真・グラフ等を投影して、改善内容やその効果等について共に理解を深め、学内外の審査委員と学内の教職員評価者により、最優秀賞1点、優秀賞3点、審査員特別賞1点が選出されました。

最優秀賞に輝いた薬剤部の発表に対し、審査委員からは「現状分析、問題点、改善策、効果の確認迄業務改善策としてパーフェクトである。特にコストパフォーマンスについては具体的

で最優秀賞に相応しい内容であった。」と高く評価されました。

最優秀賞

・薬剤部 発表者:佐々木 恭子さん
「情報発信型Web版病院医薬品集の導入」

優秀賞

・検査部 発表者:湯本 浩史さん
「患者サービスの向上と診療支援体制の強化を目指して
ー診察前検査の迅速化と検査部の課題についてー」
・2D病棟 発表者:中島 千春さん
「パートナーシップナーシング
～チーム力の向上を目指して～」
・病院管理課 発表者:藤田 尚一さん
「外来看護日誌の電子化」

審査員特別賞

・栄養治療部 発表者:栗原美香さん
「滋賀医科大学NSTの先進的取り組み
～国立大学附属病院でトップの実績を維持する秘訣は?～」

第28回滋賀医科大学公開講座を開催

H24.09.19, 26, 10.03

9月19日(水)、26日(水)、10月3日(水)の3日間、草津市立市民交流プラザ大会議室において第28回目となる滋賀医科大学公開講座を実施しました。

服部 隆則副学長の開催の挨拶から始まり、テーマを「充実した中高年の生活を迎えるために」と題し、9月19日は、整形外科科学講座 森 幹士講師による「腰背部痛と骨粗鬆症」、9月26日は、「もっと知ろう あなたの腎臓」内科学講座(腎臓) 宇津 貴准教授による「腎臓は何をしているん

だろう?」と内科学講座(血液浄化部) 一色 啓二講師による「慢性腎臓病(CKD)といわれたら・・・」、10月3日は、泌尿器科学講座 荒木 勇雄准教授による「頻尿と尿失禁」の講演を行いました。参加の皆様にはいずれも熱心に聴講いただき、質疑応答も活発な講座となりました。

また、恒例により3回のうち2回以上受講いただいた方々には修了証書をお渡ししており、最終日には、服部副学長から代表の方にお渡ししました。



森 講師による講演

2012年度 立命館グローバル・イノベーション研究機構
先端医療研究拠点シンポジウムが開催されました

H24.10.05

立命館グローバル・イノベーション研究機構が主催する、2012年度先端医療研究拠点シンポジウム「立命館大学が目指す IT と医療の融合」が10月5日(金)立命館大学びわこ・くさつキャンパスで開催されました。

本学から外科学講座 谷 徹教授が、本シンポジウム第三部パネルディスカッション「IT が拓く医療の将来の展望」で、「3次元 MR 画像ガイド下内視鏡手術」と題して講演を行い、IT 利用、IRT(インテリジェントロボット)利用について、今後の医工連携の展望について述べられました。



谷教授による講演



パネルディスカッションの様子

「第8回滋賀医科大学医師臨床研修指導医講習会」を開催

H24.10.06-07

平成24年10月6日(土)、7日(日)の2日間にわたり、ピアザ淡海で第8回滋賀医科大学医師臨床研修指導医講習会を開催しました。当日は6名のタスクフォースにご協力いただき、本学および協力病院から24名の先生方が受講されました。

講習会は厚生労働省が示す「医師の臨床研修に係る指導医講習会の開催指針」に基づき、「滋賀県で医療を支える研修医を育てる技法の開発」をテーマとし、研修医に対し適切な臨床研修を実施するための指導医としてのカリキュラム作成、指導能力

を習得することを目標に開催されました。

グループワークでは6人ごとのグループに分かれ、臨床研修指導の問題点、目標や方略などについて活発な討論が行われました。

また、臨床現場における指導医と研修医のやり取りをロールプレイで行い、指導医の適切な指導の仕方について議論しました。

2日目の閉会式では、受講者に修了証書が授与されました。



KJ法を使っでのグループワーク

市民公開講座「災害と救急医療」を開催

H24.10.08

10月8日(月)、草津市まちづくりセンターにおいて滋賀医科大学市民公開講座を開催しました。

柏木病院長の挨拶にはじまり、脳神経外科 野崎教授及び救急集中治療医学講座 江口教授の司会のもと、テーマを「災害と救急医療」と題して、第一部、第二部に分けて行われました。

第一部は「災害・地震」について、滋賀県防災危機管理局 蚊野主幹による「地震と身近な防災」、救急集中治療医学講座 田畑講師による「災害時の医療体制－DMATと医療救護班の活動－」の講演を行いました。

続く第二部は「ここまで進歩した救急医療」をテーマとして、心臓血管外科 鈴木講師による「突然襲う大動脈解離－本学での緊急対応－」、循環器内科 山本講師による「急性心筋梗塞を救うカテーテル治療」、脳神経外科学講座 樋口助教による「脳梗塞の最新治療－血管内治療

－」、救急集中治療医学講座 松村准教授による「心肺停止からの社会復帰－脳低温療法とは－」の、心臓と脳に関する救急医療について講演を行いました。

70名の参加者からは次のような貴重なご意見をいただき、3時間の公開講座を終了しました。

- ・救急医療について大変参考になった。
- ・緊急時に人を助けられるように心がけようと思った。
- ・急に状態が悪くなることがあったら滋賀医大にかかりたいと思った。
- ・先生のお話が上手で大変解り易かった。
- ・近江八幡市や彦根市等の湖北でも開催してほしい。
- ・ドクヘリ等の専門用語がわかりにくかった。
- ・2時間程度が良い。



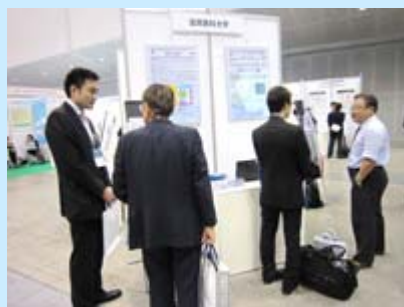
柏木病院長の挨拶



松村准教授による講演

バイオジャパン2012に出展

H24.10.10-12



出展内容説明



谷教授によるプレゼンテーション

10月10日から12日の3日間、パシフィコ横浜にて、「バイオジャパン2012－ワールドビジネスフォーラム」が、ライフ(医療・創薬、医療機器、化粧品)、グリーン、機能性食品、バイオクラスター&ベンチャーの4大テーマのもと開催されました。

本学からは、医学系産学連携ネットワーク協議会 (medU-net) からの出展として、小島 秀人准教授(生化学・分子生物学講座)、森田 真也准教授(薬剤部)が、JST からの出展として谷 徹教授(外科学講座)が、展示及び20分～30分のプレゼンテーションを行いました。

- ・谷教授「MR 画像誘導下内視鏡手術システムの開発－汎用型 MRI 装置を用いて」

- ・小島准教授「ナノダイヤモンドを用いた標的化 DDS システムの開発」
- ・森田准教授「ホスファチジルセリンとスフィンゴミエリンの高感度酵素蛍光定量法」

また、公益財団法人滋賀県産業支援プラザからは、しが医工連携ものづくりクラスター地域イノベーション戦略支援プログラム(グローバル型)として、石田 哲夫准教授(生化学・分子生物学講座)、谷 徹教授(外科学講座)が中心となり研究が行われている『「いつでも・どこでも高度先端医療」を実現する診断・治療技術の開発』について、出展されました。

各ブースとも興味深い内容で、熱心な質問に対し丁寧な説明が行われていました。

若鮎祭実行委員会による中庭池掃除を実施

H24.10.12



掃除作業中の若鮎祭実行委員会の学生たち

来る10月27日、28日開催の若鮎祭に向けて、若鮎祭実行委員会の学生たちが、メイン会場となる中庭の池掃除を実施しました。

清掃作業中は皆で協力し合いながら熱心に取り組み、日が暮れて作業が終わる頃には気持ちが一瞬一瞬になったようでした。これにより学園祭の準備もいよいよ本格的となります。

なお、25日(木)に水上特設ステージを設置するトラックが、テニスコート前の通路から臨床研究棟北側の通路を通りますので、絶対に路上駐車等はされないようご協力願います。また、29日(月)は撤去作業を行いますので、同様にご協力をお願いいたします。

滋賀県立河瀬中学校生徒が本学を訪問

H24.10.23

滋賀県では、中高一貫教育を行っている高等学校と中学校が3校ありますが、その中の1校の河瀬中学校の生徒5名が、10月23日(火)あいにくの雨の中、同校教務主任の廣田先生に引率され本学を訪問しました。

当日は、大会議室で服部副学長から歓迎の挨拶があり、引き続き大学の概要や歴史について説明がありました。その後生徒たちが「最近の学生と昔の学生で雰囲気が変わったところはあるですか?」、「本学でしか受けられない授業はありますか?」など、副学長に直接インタビューを行いました。

続いて解剖学講座(生体機能形態学部門)の宇田川教授室を訪問し、カンファレンスルームで標本観察のための基礎知識の習得として、人体の組織について勉強しました。その後実験実習支援センターでラットの脳の切

片作成過程を見学し、顕微鏡実習室では正常組織や病理標本をバーチャルスライドで観察しました。

その後の病院見学では「院内図書室」、「5A病棟」、「スキルズラボ」を見学しました。

院内図書室では、ボランティアの方から院内図書室の歴史や利用状況について説明を受けました。続いて訪れた5A病棟「瀬田の森」では、堀井副看護師長から説明を受け、廊下や病室など病棟全面に描かれたイラストに驚いていました。

同校では、各班ごとに近隣の大学を訪問し、将来の進路選択の参考にしているようですが、初めて体験した大学と病院の様子に目を丸くして見学し、医学部に対する興味を深くしたようでした。



5 A病棟見学の様子



スキルズラボ見学の様子

第38回解剖体慰霊式を執り行いました

H24.10.25



会場の様子

10月25日(木)午前10時から本学体育館において、ご遺族、ご来賓、しゃくなげ会会員及び教職員・学生約600名の参列の中、厳かに第38回滋賀医科大学解剖体慰霊式を執り行いました。このたびは系統解剖59霊、病理解剖28霊、法医学解剖78霊、計165霊を新たにお祀りし御霊のご冥福をお祈りしました。

慰霊式は、出席者全員で御霊に黙

祷を捧げ、諸霊芳名拝誦、馬場学長及び学生代表による慰霊の辞、高橋しゃくなげ会理事長の献辞、出席者全員による献花が行われました。

最後に、ご遺族代表のご挨拶及び、本学教授代表として社会医学講座の西教授から挨拶があり、厳かな内に閉式となりました。

臨時全学集会を開催

H24.10.26

今般、新聞等でも報道された本学教員によるハラスメントおよび研究費の不正使用事例を踏まえ、臨時全学集会を10月26日(金)17時30分から臨床講義棟2階・第3講義室において開催しました。

馬場学長から開会のあいさつの後、谷川理事から「本学におけるパワーハラスメント事案について」、村山学長補佐から「本学における研究費の不正使用等について」と題して、今

回の事件の経過と防止策等についてそれぞれ説明がありました。次いで、荒木監事から「監事の視点 ～コンプライアンス等、環境変化への対応～」と題した話の後、質疑応答を行いました。

最後に馬場学長から、今回の事件により、旅費請求の手続きにおいて提出物が増えることなど、また、今後このような事件が未然に防げるように、教職員全員がお互い注意していくことへの協力依頼がありました。



学長のあいさつ

体験授業を開催

H24.10.27



保護者を含めて76名の方がご参加



遠藤教授による授業

本学では毎年学園祭(若鮎祭)の日程に合わせて、高校生の方を対象に大学の授業を体験していただき、医学や看護学に関心を深めていただくため、平成15年度から「体験授業」を開催しています。今年は10月27日(土)に、医学部 遠藤教授(看護学科・臨床看護学講座、消化器外科・医師)を講師に「生命危機の評価と処置・入門編」というテーマで開催しました。当日は、県内外から高校生、保護者等合わせて76名の参加があり、大盛況でした。

授業の中では、救命処置について救命蘇生のABCから胸骨圧迫・AEDの使い方、また心臓の動きについて専門的な解説、最後にトリアージの重要性など様々なテーマが挙げられました。授業の途中では映像を交えながら、心臓マッサージやAEDの施し方をわかりやすく解説し、受講生からは「自分にもできることがあるのだと

思いました」「人の命を助けるためにも積極的に行動していく大切さを学ぶことができました」という感想が寄せられました。トリアージについてJR福知山線脱線事故を題材にした映像は特に反響が大きく、「医療現場の厳しさを感じました」「トリアージを判断するのは、かなりの責任と覚悟が必要だと思いました」と医療に携わる職業の重みを感じられている方が多く見受けられました。

また、授業終了後のアンケートでは、その他にも「医師・看護師が命を預かることの重大性を認識しました」「医療の仕事は辛い判断を下さなければならない時もあるけど、とても重要でやりがいのある仕事だと改めて思いました」「多くの命を救うためには、心も強くならないといけないと思いました」など数多くの感想が寄せられ、大好評でした。

第38回「若鮎祭」(学園祭)を開催

H24.10.27-28

第38回若鮎祭が10月27日(土)28日(日)の両日、「I'm possible～不可能を可能に～」をテーマに開催されました。

今年も、地域の方々に参加していただけた企画として、ふれあい動物園やフリーマーケット、美容ブースなど

が用意され、幅広い年齢層の方たちに楽しんでいただけました。

二日目は残念ながら雨天となりましたが、メインステージでのお笑いライブでは大いに盛り上がり、無事にフィナーレを迎えて今年の若鮎祭の幕を閉じました。



会場内の様子

病院経営分析に関する講演会を実施

H24.10.31



熱心に聴講する参加者

10月31日(水)開催の役員懇談会において、佐賀大学医学部附属病院医療情報部の藤井 進講師を招き、本学経営協議会の外部委員5名を含めた25名が参加して、病院経営分析に関する講演会を実施しました。

講演では、病院コストの考え方や大学病院として医療の質を考えた上での経営分析等について説明後、本学附属病院のデータに基づいた分析結

果により、問題点等を可視化して説明いただきました。

参加者は、実際のデータに基づいた講演を熱心に聴講し、質問されていました。

最後に、馬場学長から、講演に対する謝辞と、本学も同様の分析方法を取り入れ経営分析を行い、大学病院として社会のニーズに応えていくとの挨拶があり、閉会となりました。

外国人留学生及び外国人研究者等の宿泊見学バス旅行を実施

H24.11.02-03

11月2日(金)～3日(土)の2日間、“名画に触れ、震災を学ぶ”をテーマとして、淡路島・鳴門方面へ外国人留学生及び外国人研究者等の宿泊見学バス旅行を実施しました。服部副学長、相浦国際交流支援室長らの引率のもと総勢 27 名が参加しました。

1日目は、昼食後に、まず「渦の道」(大鳴門橋遊歩道)から渦潮見学。海上45メートルにあるガラス床からの渦潮見学はスリル満点でした。

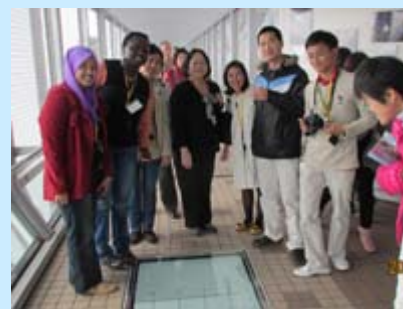
続いて、今回の旅のメインである「大塚国際美術館」を訪れました。同美術館には、古代壁画から現代絵画まで、良く知られた至宝の西洋名画1,000点以上が、原寸大で陶板名画として再現展示されており、その精巧な技術に驚かされるとともに、まさに“芸術の秋”にふさわしい一時を堪能することができました。

宿泊ホテルの夕食後の懇談会では、行きの車中で紹介された日本の歌「もみじ」、「ふるさと」や「花は咲く(震災復興テーマソング)」等を、みんなで歌い、また、留学生等からの歌の披露もあって、大変楽しい時を過ごしました。

2日目、淡路島北部丘陵地にある「あわじ花さじき」では、一面に広がる花畑と海へと続く眺望に身も心も開放されました。

旅の最後に訪れた「野島断層保存館」では、阪神・淡路大震災の被害を目の当たりにし、震度7の揺れを実体験するなど、地震について学ぶ貴重な機会となりました。

今回のバス旅行は、天候にも恵まれ、参加者一同、研究等で多忙な日常から開放されて親交を深め、良い思い出を作ることができました。



渦の道(渦潮見学)



あわじ花さじきで記念撮影

平成24年度 研究動物慰霊式を実施

H24.11.06

11月6日(火)午後3時から、滋賀医科大学研究動物慰霊碑前において平成24年度研究動物慰霊式が執り行われました。

慰霊式には、学長をはじめ104名が出席し黙祷を行った後、動物生命科学センター長の服部副学長、利用者会議議長の相見良成准教授から慰霊の辞が述べられました。

その後、出席者全員による献花が行われ、過去一年間(平成23年10月～平成24年9月)に実験に供された動物の御霊の冥福を祈りました。



センター長慰霊のことば



献花

第29回滋賀医科大学公開講座を開催

H24.11.02, 08, 16



田中教授による司会



代表の方に修了証書をお渡ししている様子

11月2日(金)、8日(木)、16日(金)の3日間、ピアザ淡海において第29回目となる滋賀医科大学公開講座を実施しました。

テーマを「昨今のがん治療について」とし、11月2日は、呼吸器外科 花岡 淳講師による「肺がん 一克服を目指して 最近の話題(外科治療を中心に)」、11月8日は、臨床腫瘍学講座 醍醐弥太郎教授による「がんたたかう先進医療開発:有効で安全ながん診断法とくすりをつくる取り組みの最新事情」、11月16日は、皮膚科学講座 田中俊宏教授の司会により、「皮膚のがんを学ぼう」と称し、

皮膚科学講座 中西 元准教授による「ウイルスと皮膚癌 皮膚癌の遺伝子検査」、皮膚科学講座 藤井紀和講師による「悪性黒色腫とほくろ」、皮膚科学講座 藤本徳毅講師による「基底細胞癌 ペーজেット病 血管肉腫」の講演を行いました。参加の皆様にはいずれも熱心に聴講いただき、質疑応答も活発な講座となりました。

また、恒例により3回のうち2回以上受講いただいた方々には修了証書をお渡ししており、最終日には、田中教授から代表の方にお渡ししました。

第30回国立大学法人生命科学研究機器施設協議会を開催

H24.11.16

11月16日(金)に、本学及びホテルポストプラザ草津において、第30回国立大学法人生命科学研究機器施設協議会を開催しました。

全国の国立大学の生命科学研究機器施設より41名が参加して、午前中は、本学において技術交流会ならびに施設見学が行われ、午後からは、ホテルポストプラザ草津において「施設間相互支援サービスについて」、「施設運営上の問題点及びその解決策について」等についての協議ならびに技術職員による技術発表お

よび技術交流会が行われ、多様化する国立大学の生命科学研究機器施設の今後のあり方や専門技術に関する情報交換が行われました。

今回の施設協議会は、Face to Face Communication を基本理念に行われました。参加者は、ポスター発表、会議に参加され、活発な質疑応答が行われ、協議会は盛況のうちに閉会しました。本協議会で得られた情報が、多様化する全国の生命科学研究機器施設で、今後の運営に活かされるものと期待しています。



開会式の様子

第2回リンパ浮腫患者交流会を開催

H24.11.26



体験を語り合い、共有する機会となりました

看護師による「リンパ浮腫外来」を開設し6年目を迎えました。この外来では、主に乳がんや子宮がんなどの治療(手術や放射線治療)によって起こる、リンパ液の輸送障害を原因とする手足のむくみ(リンパ浮腫)を持つ患者様を対象に診療を行っています。

リンパ浮腫のケアは、セルフケアが重要で最も効果があると言われていますが、継続することが重要です。また、症状の辛さが周りに理解されないことも多く、患者さんは孤独感を持たれるようです。同じ症状を抱えながら

生活されている方々が集い、思いを分かち合ったり生活やケアの工夫の情報を交換し合えることで、少しでもセルフケアを継続しようという意欲につながればと願い、昨年からリンパ浮腫外来のセラピストが主催する交流会を開催しています。

今年はあいにくの雨天ではありましたが、20名もの患者さん、ご家族が参加されました。体験を語り合い、共感したり励まされたりと、あっという間にお開きの時間となり、密度の濃い交流会となりました。

平成24年度医療法第25条に基づく立入検査が行われました

H24.11.28



病院長の挨拶



立入検査の風景

11月28日(水)、近畿厚生局及び大津市保健所による立入検査が実施されました。

検査は近畿厚生局から高橋統括指導医療官の他医療指導監視監査官が3名、大津市保健所から午前中は医療監視員3名、午後は勝山所長を含め12名が来院し、特定機能病院にかかる要件事項の適合状況、安全管理全般に係る体制確保状況、実施計画、実施状況等についての聞き取り及び各部署・病棟での現地確認が行われました。

コンプライアンスに関する研修会を開催

H24.11.29

平成24年11月29日(木)17時30分より、「国立大学法人におけるコンプライアンスのあり方」というテーマで、公認会計士 新日本監査法人シニアマネージャー 植草茂樹氏を講師に迎え研修会を開催しました。

講演では、大学を取り巻く環境の急激な変化や、社会の期待の変化からもたらされるコンプライアンス意識の高まりと、コンプライアンスを推進するために大学に求められる取り組みについて、理解を深めることができました。また、過去の不正事例から、大学

がどうあるべきか、教職員がどうするべきかを考え、コンプライアンスとは何かを理解すること、そして、構成員1人ひとりのセンシビリティ(感受性、鋭敏性)を高め、リスクを感じる力(リスク感性力)を養うことが重要であり、そのためにはコミュニケーションも必要になるとのお話もわかりやすく説明いただきました。

当日は100名を超える参加者が、コンプライアンス全般について学び、理解し、自らの役割を再認識する良い機会になったように感じています。



研修会の様子

全学あげての大規模な地震防災訓練を実施

H24.11.29



検死訓練



屋内消火栓操作訓練



消火器操作訓練

自らの安全を確保し、迅速に防災体制に移行するための一連の対応行動を身に付け、附属病院における患者さんや学生、教職員等の生命身体确保安全を図ることを目的に、11月29日(木)に今回で4回目となる滋賀医科大学地震防災訓練を実施しました。

琵琶湖西岸断層を震源とするマグニチュード8.4、震度7の直下型地震が発生し、建物の全壊はないが、一部建物が倒壊し多数の負傷者等と3D病棟では火災が発生したとの想定のもと、約300名の学生・職員が以下の訓練に参加しました。

訓練では、構成員一人一人が日常及び災害発生時において「自らが何をすべきか」を考え行動することを基本とし、事前に知られていなかったトラブルへの対応等を数多く取り入れました。

- (1)災害対策本部・副本部の設置・運営
- (2)安否確認
- (3)傷病者搬送
- (4)避難誘導(学生、患者等)
- (5)初期消火
- (6)トリアージ訓練
- (7)検死訓練
- (8)屋内消火栓操作訓練
- (9)消火器操作訓練

- (10)学外への緊急時通報連絡訓練
- (11)情報伝達訓練(衛星電話、トランシーバー使用)他

災害対策本部・副本部では、各部署から集められた情報を基に関係部署に指示を出したり、事前に知られていなかったトラブルへの報告、対処要請、さらに今回初めて、学外関連機関等への緊急時の連絡通報訓練として、滋賀県防災危機管理局、滋賀県医師会に被災状況や病院の受入態勢などの連絡を、浜松医科大学には災害時における大学病院間の相互支援に関する協定に基づく応援要請を衛星電話を使い実施しました。

病棟からの避難誘導訓練では、階段避難車であるイーバックチェアや組み立て式の担架で実際に階段を下り、病院玄関では「ガラスの破片で足を切った」「胸が苦しくて呼吸ができない」など、様々な症状を訴える患者役の本学職員が担架などで運ばれ、治療の優先順位をつけるトリアージ訓練を本番さながらに行いました。

さらに、訓練の最後には、消防署職員の指導により、実際の消火器を用いた操作体験を本学グラウンドにて行い、消火器の仕組みや使い方、使用上の注意等について理解を深めました。

クリスマスイルミネーション点灯式を行いました

H24.11.30

滋賀医科大学医学部附属病院では、本年も正面玄関前のスペースを利用した「クリスマスイルミネーション」を実施しております。このクリスマスイルミネーションは、看護広報活動推進委員会の活動の一環として毎年委員らによってデザイン・創意工夫されています。患者さん、地域住民の方々、病院スタッフに大変親しまれ、楽しみにされている季節行事となっております。

初日となる 11 月 30 日の午後5時から、多くの患者さんやご家族にお集まりいただき、藤野看護部長、小児科病棟のお子さんによる点灯式を行いました。「10, 9, 8, 7...ゼロ」のカウントダウンの声にあわせて点灯ボタンが押された瞬間、幻想的な光のイルミネーションが目に飛び込んで来

ました。それと同時に大きな歓声と拍手が沸き上がりました。普段はひっそりとした噴水もこの時ばかりは他にたとえようがないほど美しく彩られます。今年度は、玄関ホールに3mを超える巨大なクリスマスツリーも登場、外来棟2階のウッドデッキにも“瀬田の森”をイメージした動物たちのイルミネーションを実施しております。是非、夢のひとつときをお楽しみください。

【期間】

平成 24 年 11 月 30 日(金)～
12 月 26 日(水) [午前中]

【点灯時間】

16:30～21:00

【場所】

滋賀医科大学医学部附属病院
(正面玄関噴水前、玄関ホール、
外来棟2階ウッドデッキ)



正面玄関前のイルミネーション



“瀬田の森”をイメージした
動物たちのイルミネーション

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン インテンシブコース 「第2回 地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース」を開催

H24.12.01



寺田教授による講演

平成24年度文部科学省「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」採択事業の一環として、滋賀県薬剤師会、滋賀県病院薬剤師会、中外製薬株式会社との共催で、「第2回地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース」を12月1日に開催しました。

当日は101名の参加者があり、寺田教授の挨拶のあと「カペシタビン(ゼローダ®)を究めよう」のテーマに基づき、寺田教授、梅田特任講師、

矢野中外製薬(株)京都営業部メディカルアソシエートの講演が行われました。参加者は熱心に聴講するとともに、活発な質疑応答が交わされ、大変有意義な講演会になりました。

プライマリケア医を対象にした「琵琶湖プライマリケア・リフレッシュコース(第6回)」を開催

H24.12.02



三ッ浪教授の司会による質疑応答

12月2日(日)に、プライマリケア医の生涯学習促進を目的として、大津市のピアザ淡海を会場に、今年で6回目となる「琵琶湖プライマリケア・リフレッシュコース」を開催しました。

このワークショップは、主に滋賀県下のプライマリケア医の日常診療に必要な知識や技術をリフレッシュし、明日からの診療に活かしていただくことを主な目的として実施したものです。

当日は、本学泌尿器科学講座 准教授 荒木 勇雄先生を講師として、馬場学長の挨拶の後、家庭医療学講座の三ッ浪 健一教授の司会・進行により、「プライマリケアにおける排尿障害(頻尿・尿失禁・排尿困難)の管理」と題し、午前、午後の5部構成で講演を行いました。活発な質疑応答がなされ、充実したものとなりました。

講演会の最後には、受講者に受講修了証をお渡ししました。

看護学科海外研修報告会が開催されました

H24.12.12

12月12日(水)に看護学科学生の海外研修促進を目的とし、看護第一講義室において初めてとなる海外研修報告会が開催されました。

看護学科学生の海外研修は3年前から行われており、本学とミシガン州立大学連合との交流協定に基づき実施されています。

今回は、平成24年7月24日～8月8日までサギノー・ヴァレー州立大学、その他4つの病院で研修を行った看護学科第4学年の佐藤 貴代さん、内山 真奈さん、市川 瑞希さん

から研修報告があり、今後海外研修を希望する学生に対して出発までの準備等、アドバイスを含めて話をいただきました。

当日は学長、副学長をはじめ、海外研修に興味を持つ学生が多く参加し、3名の報告に聞き入っていました。また、毎年ご尽力いただいている彦根ミシガン日本センター 北村みずき様も参加され、ご意見を頂くことができ、学生にとって今後の海外研修について意識を高める機会とすることができました。



海外研修報告の様子

平成 25 年 1 月～3 月の行事予定

1 月 19・20 日 大学入試センター試験

2 月 25・26 日 一般選抜試験

3 月 7 日 卒業式

大学概要



国立大学法人

滋賀医科大学
SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

所在地：

〒520-2192

滋賀県大津市瀬田月輪町

開学：

1974年10月1日

活動内容：

教育・研究・診療

役員：

学長

馬場忠雄

理事（教育等）

服部隆則

理事（医療等）

柏木厚典

理事（経営等）

高尾孝信

理事（総務等）

谷川成美



担当

企画調整室

TEL:

077-548-2012

FAX:

077-543-8659

本学 Web サイト URL:

<http://www.shiga-med.ac.jp/>

E-MAIL:

hqkouhou@belle.shiga-med.ac.jp

報道された滋賀医科大学 (平成 24 年 10 月～平成 24 年 12 月)

教育関係

2012/12/03	日経グローバル	大学設置形態別 上位ランキング
2012/11/23	京都	滋賀医科大元医師 強制わいせつで有罪
2012/11/22	中日	国際基準の医療教育を 浜松医大、滋賀医大が協定締結
2012/11/22	京都	滋賀医大、浜松医大と協定 人材や研究交流
2012/11/22	静岡新聞	浜松医大、滋賀医大と包括協定 教養教育向上図る
2012/11/17	日経	浜医大と滋賀医大 提携 教育、研究向上へ人材交流
2012/10/27	週刊東洋経済	2012 年 独自ランキング 日本の大学 TOP300
2012/10/18	京都	特定建築物 955 棟で倒壊恐れ
2012/10/09	西予市	「第 1 回西予市おイネ賞事業」受賞者決定！！
2012/10/01	中日	大学生ら無料指導 「貧困の連鎖」解決を

研究関係

2012/12/11	日経	ALSのマウス 実験用に作製
2012/12/11	京都	不要なタンパク質を分解 酵素できず ALS 症状
2012/12/11	マイナビ	京大、遺伝子改変マウスで「筋萎縮性側索硬化症」の疾患の再現に成功
2012/10/13	京都	県警科捜研員が手法開発 体内の植物毒 微量でも特定
2012/10/09	朝日	有毒植物、DNA で特定 県警科捜研・松山さんに医学博士号
2012/10/06	読売	県警科捜研 松山研究員に博士号
2012/10/06	中日	松山さん医学博士号 毒物の DNA 増幅させ特定
2012/10/05	日経プレリリース	アステラス製薬、「イプラグリフロジン」が他の血糖降下剤併用での有効・安全性を確認

病院関係

2012/12/13	医療介護 BC ニュース	特定健診の医療費削減効果を検証へー厚労省検討会がWGを設置
2012/12/12	中日	患者癒す きらめき 滋賀医科大学附属病院 聖夜イルミネーション
2012/12/02	読売	病院の実力 59 心臓病
2012/11/29	週刊文春	専門医から推薦の多かった心臓外科医
2012/11/06	京都	芸術×医療 癒やしに力
2012/11/04	読売	病院の実力「抗がん剤治療」
2012/10/27	週刊ダイヤモンド	頼れる病院 消える病院
2012/10/27	読売	送信画像でがん診断 成人病センター病院ネット構築へ
2012/10/12	日経産業	医療・介護最前線リポート 脳卒中症例を蓄積・分析
2012/10/08	京都	滋賀医科大学医学部附属病院 信頼と満足を追求する全人的医療
2012/10/07	読売	病院の実力 57 眼科
2012/10/05	日経	重度の肥満 手術も選択肢

社会連携

2012/12/11	読売	「こころとからだの元気講座」
2012/12/05	読売	滋賀医大が生活習慣病予防講座
2012/12/01	朝日	子どもの自殺調査、扱いを議論 滋賀県対策チーム
2012/11/30	中日	みんなの歯とお口の健康セミナー
2012/11/02	読売しが県民情報	じょうほう箱 「県がんフォーラム」参加者募集

2012/10/26	朝日	地上に平和を！人々に笑顔を！
2012/10/19	京都	発達障害者の就労考えよう
2012/10/13	中日 Web	発達障害者の就労考えるシンポ
2012/10/05	産経	第 8 回滋賀県脳卒中市民公開講座
2012/10/02	読売 しが県民情報	第 29 回滋賀医科大学公開講座「昨今のがん治療について」

その他

2012/12/26	読売 オンライン	清涼飲料水飲み過ぎ 女性に脳梗塞リスク
2012/12/24	京都	湖国から健康を考える 滋賀の医師に聞く 滋賀医科大学 社会医学講座 講師 喜多 義邦 氏
2012/12/13	河北新報	東北発 ニッポン元気会議 家庭での血圧測定有効
2012/12/01	朝日	大震災想定 対応や連携確認
2012/11/26	日経	京都経済特集 創薬・在宅医療も先駆
2012/11/23	読売	滋賀医大元勤務医に有罪 強制わいせつで地裁判決
2012/11/23	中日	医師の被告に猶予4年の判決 強制わいせつ事件
2012/11/23	朝日	強制わいせつで医師に有罪判決 「繰り返しセクハラ」
2012/11/23	毎日	強制わいせつの元医大医師有罪 地裁判決
2012/11/09	科学新聞	平成24年 秋の叙勲受章者
2012/11/09	農業協同組合新聞	別所隆氏(神奈川県)らに平成 24 年度農村医学会賞
2012/11/05	朝日	県文化賞2氏が受賞
2012/11/03	読売	秋の叙勲
2012/11/01	毎日	元滋賀医大医師に懲役1年6月求刑 わいせつ罪で
2012/10/12	京都	医療・健康の特区申請
2012/10/08	朝日	認知症 思いを語る 7 心の中は変わらない